



みんなの白子川！ 白子川源流・水辺の会

鯉を下流へ放流しよう

この日は晴れて風もかなり温かい日。白子川に着くと、すでに白子川源流・水辺の会のみなさんは胴長を着て白子川の清掃作業を始めていました。

今日は定例の清掃作業だと伺っていたのですが、みんなで網を持って、誰かが放した鯉の捕獲作業をしています。なぜ鯉を移動



菅沢さん「やっと捕まえた〜」

させているのでしょうか？ 鯉は悪者なの！？
いえ、実は白子川源流（大泉井頭公園内）にすむ小さな魚たちを鯉から守るため。捕獲した鯉は、せき止めてある所から下流の“鯉のエリア”に放流するそうです。

かつて、周辺の開発と共に、汚水がどんどん流され、汚染が進んでいった白子川。

下水道の整備などで、やっとホトケドジョウやギンブナなどがすめるまでに回復してきましたが、白子川源流・水辺の会では、もう二度と、誰も見向きもしなくなったあの頃の川に戻らないよう、白子川を愛し、見守る活動を行っています。

まち活つうしん かわらね

ねりままちづくりセンター 取材日：2008.12.21

みんな大好き！白子川

週末の大泉井頭公園には、小さい子どもづれの家族がいっぱい。胴長を着て作業をしていると、「何やってるのー？」と、子どもたちがいろいろ話しかけてきてくれます。会員の方は子どもたちの問いかけに優しく応え、「ちょっと手伝ってくれる？」とお願いすると、みんな喜んでやっていました。

こんな様子を見てみると、白子川の持っている力は、すごいなあと思いました。

一声あったら、嬉しいな

その日の作業が終わり、川の中にある木で作られた“舞台”が、きれいに補修されていたのに気付いた菅沢さん。「区の方が知らないうちに直してくれたんだなあ」と、ポツリ。以前、木道に柵をつけてロープを張る作業も、いつの間にかやってくれていたことがあったらしいのです。「確かに、私たちは井頭公園の管理をまかされている訳ではないけど、補修をする際に、せめて一声かけてくれたらお礼でも言えたのに…」と菅沢さんはちょっとさみしそうでした。胴長を脱ぐと、汗がびっしょりでビクリしましたが、風が涼しくて気持ち良い一日でした。

水質調査で白子川の診断

今回の取材で、護岸の隙間から水がこんこんと湧き出ているのが分かりました。この大泉井頭公園あたりは、周辺の宅地化の影響で地下に雨水がしみ込まず、湧水が減って、毎年冬になると、ひどい時には川底が見える状態にまで干あがるそうです。そこで白子川源流・水辺の会では、本田さんが中心になって、定例作業の一つとして、3カ所で水質調査を行っています。この地道なデータの積み重ねには、白子川の小さな変化を見逃さない、もう二度と昔のような汚い川には戻さないという姿勢、想いを強く感じさせます。



水深を測っている本田さん



微妙な変化も見逃さない！



これが水質調査グッズ



白子川源流・水辺の会
代表の菅沢さんに
聞きました。



白子川源流・水辺の会 について

設立 2001年 6月

活動テーマ

白子川源流の湧水と豊かな水辺環境の保全・回復をはかり、もって地域の活性化をはかる

活動内容

- ・ 定例活動（水質・水量・生物調査、清掃）を毎月第四日曜日午後を実施
- ・ 小学校の総合学習に毎年協力
- ・ 『白子川源流まつり』（1000人規模）を毎年開催

活動場所

白子川源流（区立大泉井頭公園）

ホームページ

http://www.geocities.jp/sirako_river/

団体連絡先

suga-lohas@jcom.home.ne.jp（菅沢）

Q. 白子川での活動で一番大切にしていることは何ですか？

「人」をもっとも大切にしていきたい。

市民団体ですから、義務も強制もない様々な人の参加で成り立っています。その一人ひとりが「楽しんで」「役に立っている」ことを実感できるように運営していきたいと考えています。

Q. これから活動をどのように展開していきたいと思えますか？

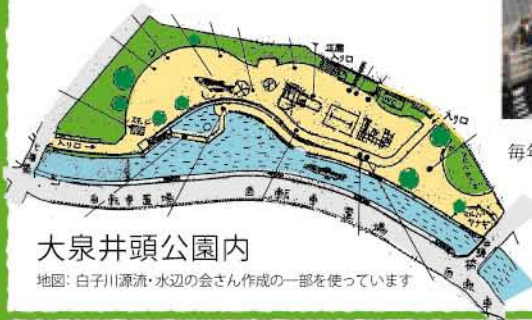
源流（大泉井頭公園）の川底に沈殿しているドロや、夏のアオミドロ対策など川の浄化対策がメインになってくると思います。



会報誌・白子川源流通信は、メンバーが手分け作業で、文章や挿絵を添え、印刷を行っています。もらって嬉しくなる通信。



毎年恒例になっている白子川源流まつり。白子川にまつわる様々な出し物があって楽しめるだけでなく、白子川源流・水辺の会の活動を広めるための、とても大切な場です。



大泉井頭公園内

地図：白子川源流・水辺の会さん作成の一部を使っています

練馬まちづくりセンターは

“まちづくり活動助成事業”で、

白子川源流・水辺の会の活動を応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、まちづくり活動を行っている団体を支援する事業です。当センターのまちづくり活動助成には3つの部門があります。

【はばたき部門】身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動への助成です。

【たまご部門】これから身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動に取り組むにあたり、事前の学習をおこなうこと に対しての助成です。

【テーマ部門】身近な場所で生き物と呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創りだす活動への助成です。

練馬まちづくりセンターとは…

練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実践する組織です。

取材日記

白子川に入って感じたのは、水はきれいなのに、ヘドロが意外と溜まっていたこと。川に入って草刈をされていた方も、夏の作業はおいがひどくて素手ではできないし、おいがとれなくて困るという話でした。

白子川に、常に水が湧き出す状態を維持するためには、周辺地域の住民の方の協力が得られないと、なかなか実現しにくいものです。その点において、白子川源流・水辺の会では、パッと見て、どこの誰がどういう目的でやっているのか、活動中に旗や看板などを掲げています。周囲に活動を伝えながら湧水を増やす啓発活動を行っています。周辺へのアピールを同時にすることで、地域に理解者を増やし、活動の輪を広げる一とても重要なことだと感じました。

さらに白子川のみなさんは、周りで見ている子どもからお年寄り、いろんな人と自然に会話をしながら活動をやっていました。本当に心の底からすごいなぁと感じました。

みなさんも、この場所に来て、活動をしている様子を見たら、きっと仲間に加わりたと思うはずですよ。